

## 東京都立府中療育センター 第31回地域療育講習会アンケート結果

「親子と多職種でONE TEAM ～通園における療育について～」ーWeb配信ー  
令和4年9月30日(金)午後2時から4時まで

<聴講者数について>

地域) 事業所 59所 オンライン聴講 221人 電子サービス申し込み(URL取得)件数 93件  
\*事業所により、個人ごとに申し込みされた場合と、1件の申し込みで複数人で聴講される場合があるため、オンライン聴講人数と、電子サービス申し込み件数に差異があります。

当センター) オンライン聴講 29人 会場で聴講 23人 合計 52人

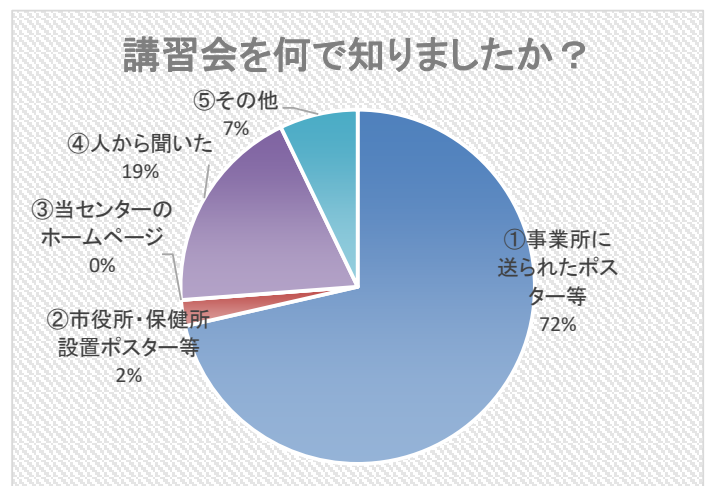
総計) 聴講者数 273人

<アンケート集約について>

地域) アンケート回収 42件 \*1事業所で複数人数での回答は、1件としました。  
回収率 45.1% \*母数は電子サービス申し込み件数としています。

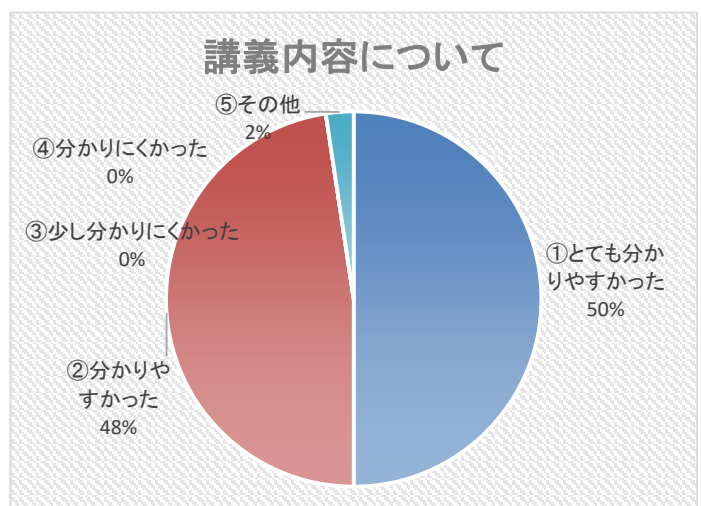
### 1 講習会を何で知りましたか？

該当項目	件数
①事業所に送られたポスター等	30
②市役所・保健所設置ポスター等	1
③当センターのホームページ	0
④人から聞いた	8
⑤その他	3
計	42



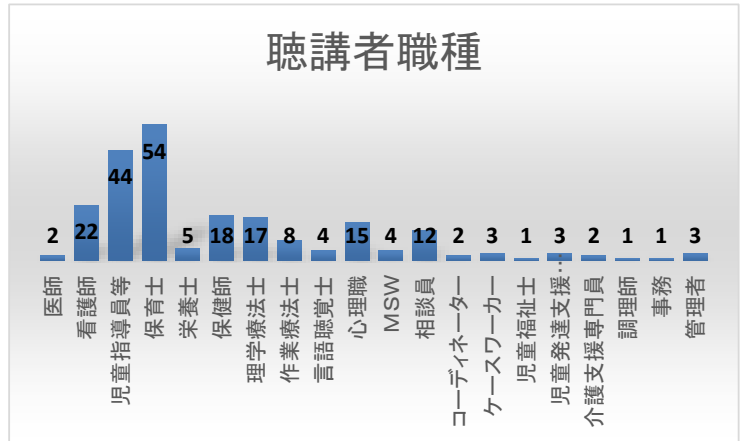
### 2 講義内容について

該当項目	件数
①とても分かりやすかった	21
②分かりやすかった	20
③少し分かりにくかった	0
④分かりにくかった	0
⑤その他	1
計	42



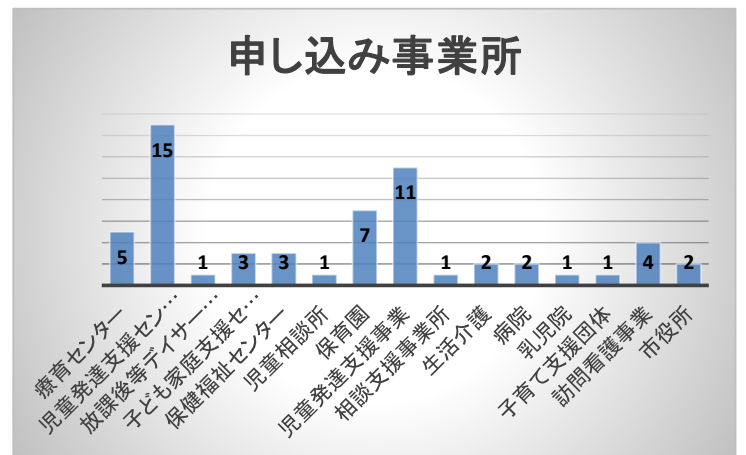
### 3 聴講者職種

該当項目	件数
医師	2
看護師	22
児童指導員等	44
保育士	54
栄養士	5
保健師	18
理学療法士	17
作業療法士	8
言語聴覚士	4
心理職	15
MSW	4
相談員	12
コーディネーター	2
ケースワーカー	3
児童福祉士	1
児童発達支援管理責任者	3
介護支援専門員	2
調理師	1
事務	1
管理者	3
計	221



### 4 申し込み事業所

該当項目	件数
療育センター	5
児童発達支援センター	15
放課後等デイサービス	1
子ども家庭支援センター	3
保健福祉センター	3
児童相談所	1
保育園	7
児童発達支援事業	11
相談支援事業所	1
生活介護	2
病院	2
乳児院	1
子育て支援団体	1
訪問看護事業	4
市役所	2
計	59



5【今後の講習で取り上げて欲しいテーマや要望がありましたらご記入ください。

1	・PT、OT、看護師、栄養士など専門職による内容
2	・障害児、医療ケア児の栄養管理について
3	・中高生年代の子どもたちトコミュニケーションツールについて(スイッチなど)
4	・地域連携について 地域連携が少しずつ進んでいますが、まだまだのように思います。行政の規模、考え方、システム(福祉、医療、教育等)によって異なるところがあると思いますが、どのように進めていくのが長続きして親子さんのためになっていくのか、事例を含めて知ればと思います。
5	・療育に取り入れられるOT、PTのリハビリ
6	・呼吸障害、呼吸管理、排痰援助、筋緊張、活動など
7	・車いす、バギー作成やメンテナンス、手続きについて。市町村で対応が違っていたりするので標準的なことを知りたい。
8	・当センターの生活介護について 重症心身障害者通所(生活介護)での実践内容。他職種の関わりかた。開所時と現在の違い、課題。重症心身障害者の療育、医療に関する最新情報
9	・外来案内の概要や最近の傾向などについて
10	・脱感作について 緊張のほぐし方
11	・外来でのPT、OT、ST、摂食について(家族や所属園との連携など)
12	・ケースワーカーの日々の活動への参加の仕方について
13	・発達障害のお子さんをのばしていくため、生活しやすくするために必要なこと。親御さんへの支援
14	・スプーンを上手に持てるようになる遊び等、こんな遊びが〇〇につながる

6【これまでの講習会に参加したテーマ】

テーマ	延べ人数
摂食・嚥下	10
褥瘡・スキンケア	0
歯科口腔衛生	0
呼吸障害	2
消化器疾患・排泄ケア	0
服薬と管理	0
栄養	1

テーマ	延べ人数
活動・遊び	4
骨折	3
感染症対策	1
看取り	2
筋緊張（ボツリヌス毒素療法）	1
コミュニケーション	0
合計	24

## 7【ご意見 ご感想】

\*当センターのホームページ掲載にご了解いただいたもののみ、到達順に記載しています。

1	・私の勤務している施設では、PT・OTがないため、PT・OTが同じ職場にいて、連携をとれることの良さ（強み）を感じました。
2	・一人職場なので、同様の業務をどのように説明するのかなど興味深かったです。
3	・療育遊びがどのような目的で行われていて、各専門職からの視点も入っていたので児にとって効果的なことが理解しやすかったです。
4	・保育内容やそれぞれをどのようにとらえ、どこをポイントにサービス提供しているかがよくわかりました。ありがとうございました。
5	・当センターも親子通園ですが、時流に合わないかなとも思っておりましたが、その重要性・有用性を再認識というより教えていただきました。小森部長をはじめstuffの皆様の情熱に心打たれました。
6	・貴重なご講義ありがとうございました。療育センターでどのようなケアがなされているのかとても分かりやすかったです。
7	・多職種の連携の大切さが勉強になった。今後、職場でも色々な意見を出し合っていきたい。 摂食のお話で、手掴み食べと遊びがつながっているということが参考になった。色々なお子さんのことを思い浮かべながらお聞きした。 様々な遊びの中に、子供たちの発達につながる要素がたくさんあることを実感した。その子のこれからの発達のために、今後たくさんの方と遊びを考えていきたい。
8	・遊びと摂食について専門職の視点から多角的に講義していただき、理解が深まりました。 親子通園の大切さを再認識しました。ただ、最近のお母様の傾向は育休が明けたら働きたい、子どもを預けたいとのニーズがあり、療育センターなどの親子通園が今後のお子さんの発達に良い面やお母様にとってもよい経験になることを上手く伝えられたら、と常々思っています。
9	・大変分かりやすい説明を頂きありがとうございました。参加者が100名以上となった為か音声に乱れが度々生じ勿体無いと感じました。
10	・障がいのある子どもを育てる中で、親が孤立せず共に育っていくための支援体制を作るため、様々な職種の連携が重要であると、改めて感じました。職種による専門的な視点からの具体的な講話が勉強になりました。
11	・親子通園がしたくともできないケースが多いのではと感じてしまいます。最後の副院長さんの話の最後にもありましたが、「恵まれない親御さん」にどのようにサポートされていくのか、していくのか、考えて実践できればと考えました。
12	・ありがとうございました。
13	・訪問時にご家族に通園を紹介していますが、自分自身が多くを知らなかったのが実際がわかりました。 今後、ご家族に内容なども含めてご紹介できると思いました。 自分自身が訪問する中で根拠を持って遊びも取り入れていきたいと思いました。 最後の母子密着のお話は自分が訪問している中で大事にしている事なので心にひびきました。 ありがとうございます。

14	<p>・市民の親子がどのような通園をされているのかの様子がわかりました。遊びのところで、1日の流れや繰り返すことで子どもの苦手感が減り遊べるようになっていくこと、遊びのバリエーションなどを知ることができました。親子通園へのこだわりや思いでは、親子で育っていく必要性がわかり、地域でも同じ視点でどの親子へも関わってほしいと思いました。</p>
15	<p>・幅広い内容がまとめられており、わかりやすい説明でした。 遊びや保育の大切さを改めて実感でき、明日からの保育も頑張ろうという気持ちにさせてもらえました。ありがとうございました。</p>
16	<p>・遊び、抱っこの仕方、摂食など、とても参考になりました。 手づかみ食の重要性など、勉強になりました。 プールなど、施設が立派すぎて羨ましいです。 どんな医療的ケアがあっても、重心でも、遊びに参加できるよう工夫をされていることが素晴らしいと思いました。 その日の夕方の多職種での振り返りなども、とても参考になりました。</p>
17	<p>・貴重なご講演をありがとうございました。重症心身障がい児の療育の実際の学びが深まりました。障害の重いお子さんの支援は、専門職でも難しい場面が多々あると思いますが、多職種連携、チーム力でお子さんも親御さんも支えられていることがよくわかりました。発達の可能性は無限大で未知な部分も大きいと思いますが、丁寧なかかわりで、その児の発育を引き出されているのだなと感じ、頭が下がりました。 支援学校卒業後の方の通所される生活介護事業所(医療的ケアあり)に勤務しています。大人の年齢になっても、変化や成長を感じることがあり、日々支援はより良い変化を求めていく事が大切と感じています。 本日のご講演にあったような、発育段階での丁寧なかかわりで培ってきた利用者様の持てる力を大切にして、明日からも心して支援に当たりたいと考えました。ありがとうございました。 質問(人工呼吸器、医師の関り等)にもお答え頂きありがとうございました。 (追伸:閉会時の副院長 伊藤先生のお話もとても興味深かったので、資料をアップして頂けると嬉しいです。)</p>
18	<p>・それぞれの職種からの視点で通園との関わりについて説明があり、写真も豊富でわかりやすかった。実際の通園児さんとの関わり方の具体例もあげていただいてイメージしやすかった。先生の講義で親子通園を継続している理由についても説明があり、一番知りたかったことが知れて参考になった。</p>
19	<p>・通園の運営が、場所により若干相違があり参考になりました。</p>
20	<p>・貴施設での取り組みが具体的によくわかる内容で、大変参考になりました。</p>
21	<p>・幼児期の療育について知る機会となり、参考になった。</p>
22	<p>・多職種での通園の利用者さんへの関わりが、円滑に機能していて素晴らしいと思いました。</p>
23	<p>・当園の通園事業にも参考になる内容が多かった。当園においても、親子通園の必要性を日々実感することが多い。</p>
24	<p>・活動について、普段知ることができない他職種からの視点を知ることができ、大変勉強になりました(指導員)。 一昔前と違い、医療的ケアが必要でも単独で通うことのできる児童発達支援サービス(医療型)が利用しやすくなっているので、当センターでも併用をしている方がほとんどです。また、訪問リハビリのかかわりもあったり、一組の親子にたくさんの人が関わることが多くなっています。支援者が多くなることは良いことと思いますが、普段の業務をこなしながら横の連携をとるための努力をしていない・・・と反省しています。府中療育センターでは他機関と併用しているお子さんについての連携はどのように工夫されていますか？今回のように府中療育センターでの取り組みを広く外部に発信することも施設同士の相互理解のために大いに有益と思いますが、個別的なことについての連携の工夫について教えてください。(理学療法士) 開始前に当日のプログラム画面が出ていたのですが、その時に音声は出ていたのでしょうか？事務局の画面がミュートになっていたのでは・・・と思いますが・・・開始のご挨拶が始まってから、こちらのスピーカーとの接続ミスで音が出ていないことに気づき、慌てて接続や、ボリュームを確認するということがありました。事前に音声の確認もできるように少し前からBGMが流れるなど、音の確認ができると良かったと思いました。</p>
25	<p>・当センターとは異なり、身体障害のあるお子さんも多く、姿勢調整(筋緊張の調整)が勉強になりました。まとめのお話が面白かったです</p>
26	<p>・多職種の方がいらっしゃるの、それぞれの立場からのアプローチが興味深かったです</p>
27	<p>・通園、療育をまだよく知らない方にもポイントがわかりやすかったと思います</p>
28	<p>・重度の障害の支援、療育から学ぶことは大きい。今回、自発的な動きを促す、待つことの大切さを学ぶことができた</p>

29	・整理してとりくみについて確認することができ、貴重な機会でした
30	・それぞれのテーマをより深く聞きたいと思いました。今回はチームとしての全体像ということで、いろいろな職種が連携し、専門性をいかして支援にあたっていることがわかった。こまめにケースの会議をもって情報共有することが大切と感じた
31	・内容は解りやすかったがオンライン受講のため、時々画面が見づらいことがあり残念だった
32	・職種ごとの視点というのが同じ課題(活動)をベースで紹介されていてわかりやすかった。改めて多職種連携の大切さを感じた。自分の仕事に対して「とても必要なことをしている」とポジティブな気持ちになった
33	・他施設での取り組みが聞けて参考になりました
34	・通園の課題遊びの背景やくわしいことがわかったことがよかった
35	・自分の職場には重身の子童はいないが、どんな活動をするのかイメージが持てたし、共感するポイントを感じた
36	・くちびるを閉じる重要性を理解できた。「あむー」の”む”を強調するのは確かに伝わりやすい。さっそく取り入れたい

### 【ご質問と返答】

\* 講習会でお応えできなかったご質問と、アンケートでのご質問にお答えします。

1	<p>&lt;ご質問&gt; 他機関との情報共有はなさっていますか</p> <p>&lt;回答&gt; 計画相談事業所とのモニタリングや園児の並行先の保育所への訪問、児童発達支援とは電話にてコロナの状況の確認をしています。他にも子ども家庭支援センター、保健所、居住地の障害福祉課等と、必要に応じて情報交換をしています。また、卒園した園児が通う特別支援学校の先生方が卒園後に来院し、情報交換をしています。</p>
2	<p>&lt;ご質問&gt; 保護者同士のきずなを高めるために大きな行事での参加が考えられると思います。コロナ禍での卒園式などの参加者が多い行事の感染対策や人数制限などを参考までに教えてほしいです。</p> <p>&lt;回答&gt; 今年度の行事についてですが、入園式は入園児と保護者のみで、午後、行い、午前中に継続児のはじまりの会を行いました。運動会は、コロナ以前は午前中に園児全員で開催していましたが、今年度は午前と午後の2部制にし、家族の人数を制限し(付き添い2名まで)、園庭で行いました。遠足は付き添い保護者と1名とし、大型バス2台で換気をしながら公園に行きました。昨年度の卒園式は在園児は参加せず、卒園児と退園児のみで行い、付き添いも2名までとしました。今年度も同様の設定で企画する予定です。 親子通園ですので日常的に保護者同士が会話をする機会がありますが、行事の時にはその他のご家族に参加していただき、お子さんの様子を見ていただく良い機会だと思っています。ただ、コロナ禍ではやむを得ず、人数を制限して実施しています。</p>
3	<p>&lt;ご質問&gt; 保育所等の支援事業のないようなど他の施設での訪問支援内容や可能であれば具体的な事例など教えていただければと思いました。</p> <p>&lt;回答&gt; 保育所等の集団生活に不安がある方、また、現在通っている中で困っていることがある方に対し、保育所等と当院が協力して、不安の解消や問題の解決に向けて支援を行います。 具体的には、支援内容にふさわしい当院職員(医師・保育士・PT・OT・ST・心理・看護師など)が保育所等に赴き、その場でお子さんに関わる時間を持ち、それに基づいて専門的な視点から、お子さんに対する支援や先方の担当者へのアドバイスを行い、集団の中で安心して生活できるように支援します。 (* 保育所等とは、保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校・認定こども園・乳児院・児童養護施設等です。) 今年度は通園から保育園への転園児と外来の保育園児、地域の普通小学校に進学した通園児の訪問支援を行っています。保育園の中での友達との関わりや、集団の中での動き、食事の形態や食べ方について、学校ではコミュニケーションや過ごし方について、支援計画書に基づき、訪問しています。</p>

	<p>&lt;ご質問&gt; 質問ですが、「VATER症候群と診断されている年長のお子さんの摂食のことです。現在、ペースト状の食事を続けています。スプーンを使って自ら行っています。少しずつ柔らかな固形物に移行していければと思うのですが、どのような配慮、支援をしていけばよいのでしょうか。(かなり大雑把な状況説明で申し訳ありません。)」</p>
4	<p>&lt;回答&gt; VATER症候群の特徴の1つとして気管食道瘻や食道閉鎖がみられる場合があります。小さいうちに手術を受けていることが多いのですが、手術後も食道が狭く食物が通りにくいことや、検査では明らかな狭窄がみられなくてもお子さんが違和感を持っていることもあります。食べ物が通りにくければペースト食を続ける必要もありますので、現状がどのように評価されていて、食事についてどのように指導されているのか、ご家族に確認していただくとよいと思います。形態を初期食から中期食に変更していく時には、口唇閉鎖の動きを強化していくことが重要です。今、どのような食べ方をしているか確認してください。口唇閉鎖が確実であれば、柔らかい塊をつぶすことを取り入れていただくとよいと思います。口唇の動きが不十分であれば、ペースト食を利用して介助食べも加えながら「む～」の声かけ口唇を閉じる動きの獲得から始めてくださるとよいと思います。 大まかなご返答しかできませんが、ご参考にいただければ幸いです。</p>
5	<p>&lt;ご質問&gt; 府中療育センターでは他機関と併用しているお子さんについての連携はどのように工夫されていますか？今回のように府中療育センターでの取り組みを広く外部に発信することも施設同士の相互理解のために大いに有益と思いますが、個別的事項についての連携の工夫について教えてください。</p> <p>&lt;回答&gt; 当院も児童発達支援や保育所との併用のお子さんが多くなっています。必要に応じて、通われている施設の見学をさせていただき、情報交換をしています。特に、保護者から次年度の進路についてのご相談を受けた場合には、他施設でのお子さんの様子を見に行き、少しでも保護者の不安を取り除けるようなアドバイスができるようにしています。また、他施設の職員の方々にも保育の様子やリハビリ、摂食指導の様子を見に来ていただいています。</p>
6	<p>&lt;ご質問&gt; 開始前に当日のプログラム画面が出ていたのですが、その時に音声は出ていたのでしょうか？事前に音声の確認もできるように少し前からBGMが流れるなど、音の確認ができると良かったと思いました。</p> <p>&lt;回答&gt; 開始前、プログラム画面では音声はありませんでした。貴重なご意見ありがとうございます。講習中、たびたび音声や画像が途切れ、聴講者の皆様に、ご不便をおかけいたしましたこと、大変申し訳ありませんでした。</p>